

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 放課後等デイサービス 大和園平和		
○保護者評価実施期間	R6年 10月 1日 ～ R6年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数（児発）	(対象者数)	15 (回答者数)	9
○保護者評価有効回答数（放デイ）	(対象者数)	22 (回答者数)	14
○従業者評価実施期間	R6年 10月 1日 ～ R6年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 30日（HP公表）		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・放デイ…活動の予定を子どもたち自身が決めたり、スタッフと一緒に考えたりして、子どもたちが取り組みたいことを考え行えるよう、個別に寄り添いながら主体的に過ごしてもらえるところ。家庭的な雰囲気の中で、スタッフやお友だちとの交流を深めあうことができている。	・自分で何をしたいかを考えるのが難しい子どもたちが取り組めるよう、16：00～は「わくわくタイム」を設け、スタッフで考えた「あそび」を週替わりで行っている。参加は任意としており、自分でやりたいことがある場合は無理強いしない。 ・日々ケース会議で子ども一人一人の状況を共有し、職員間で意見を出し合う時間を持っている。 ・学校休業日の活動内容については、クッキングや工作などの計画を子どもたちと一緒に考え準備している。	・子どもたちの状態に合わせて道具（児発）道具（放デイの工作等）ボードゲームの種類を増やす。
2	・児発…1クラス3名程度で個別の支援を行っている。	・週に一回ケース会議を開き、それぞれの情報を共有している。	・PTなどからの具体的なアドバイスを受け、支援を行っていく。 ・子どもたちが意欲的に活動できるように、常に新しいあそびの提案をしていく。
3	・児発、放デイともに送迎を行っている。	・放デイは送迎の際に必ず保護者の方とお会いできるので、出来るだけその日の様子をお伝えするようにしている。 ・児発の送迎時は保護者の方とお会いできないことが多いので、次の利用時には支援中の様子を記録に書いてお渡ししているよう努めている。	
4	・勉強会でスキルアップを目指している。 ・1回/月の頻度で避難訓練を行っている。	・勉強会の年間計画を作り、テーマに添った勉強会を実施している。（1回/月） ・地震、火災、不審者等毎月テーマを決めて、子どもたちと一緒に避難訓練を行ったり、職員間でマニュアルの確認を行ったりしている。	・毎月のおたより等で、勉強会の内容を保護者の方にもお知らせしていく。
5	・隣接している特養（老人ホーム）の利用者様との交流を持つことができる。	・児発、放デイともに、スタンプラリーや夏祭り、おもてなし会などを行っている。	
6		・ペーパーレス化	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・配置要件は満たしているが、男性職員がいないことで男児への対応で不十分な点が出てくる可能性がある。（特に外出時）	・男性職員の不足。	・外出時等で必要なときは、他部署の男性職員に支援に入ってもらよう要請する。
2	支援終了時間が17：00なので、高学年になってくると学校から帰ってから過ごせる時間が短い。	・支援時間を延ばすと、職員の配置が難しくなる。	・現在の支援時間中に存分にあそんでもらえるよう、環境を整える。